

「人類は萬物の靈長」

(昭和四十年 七月発行)

人は萬物の靈長である。靈長とは靈で長まるをい^{おさ}う。長とは、久し、遠し、大なり、善し、常なり、尊上、高貴、かしら、養う、導く、教うなどの意味がある。靈の活動は宇宙の大活動を知ることが出来る。長まるとは、長く、永遠無窮に靈の活動を続けるをい^{おさ}うのである。これを天の使命という。靈の活動を理解してその力で心を養うことが人としての誠の道であり、一番大切な道である。

人が萬物の靈長であるがゆえんを思うならば靈の本質、靈の性格を知らねばならない。萬物という場合は、鳥獸・草木等あらゆる萬物に賦与されている靈をいう。萬靈の範囲は広く、靈眼で眺めるならば、あらゆるものに靈が賦与されており、足の踏み所もないまでに靈が宇宙に充満している。萬物の靈長である人は、萬物とは陰・陽の關係にあり、萬物と人と合わせて宇宙の働きをすることが道なのである。人は萬物に賦与せられている靈に愛の力を入れて、地上で生成化育の道をはかるならば、萬物も人間に徳を與える。これは體的・物的に恩を返すわけである。